藤沢市
藤澤浮世絵館
FUJISAWA UKIYO-E MUSEUM

浮世絵館だより

2019年
3月
Vol.8

もくじ

展示紹介

小栗判官物語と遊行の縁 …… P1
藤沢と小栗判官 浮世絵の中の姿 …… P2
江戸の娯楽に広がる小栗判官物語 …… P3
小栗判官と遊行寺 今に伝わるその縁／浮世絵こぼれ話 …… P4・P5
ONIKAGE学芸員のページ／浮世場なれ／編集後記 …… P6

小栗判官物語と遊行の縁

会期 2019年2月23日(土)～4月14日(日)

歌川貞虎 「小栗判官助重横山ノ館ニ於テ鬼鹿毛ニ乗リ遁ル危難ヲ図」

江戸時代に広く流布された小栗判官の物語は、浄瑠璃や歌舞伎の舞台以外にも、読み物でも多く刊行されており、ストーリーも枝別れしたり、他の物語との複合や接種を繰り返したりして無限のように編み出されていました。これだけ人々を楽しませ、愛された小栗判官は、江戸時代には、「藤沢宿」の代表的なキャラクターとして、浮世絵に多く描かれています。小栗判官が藤沢に根付いていった背景には、藤沢の古刹・時宗総本山藤澤山清浄光寺（遊行寺）との不思議な縁がありました。

本展では、小栗判官の描かれた浮世絵とともに、遊行寺にまつわる資料なども展示し、藤沢を代表するキャラクター、小栗判官のもつ不思議な魅力について紹介します。

藤沢と小栗判官　浮世絵の中の姿

図① 歌川国貞（三代豊国）
「東海道五十三次之内 藤沢 小栗判官」

「藤沢といえば〝小栗判官〟」

藤沢宿は遊行寺に深い縁を持つ「小栗判官照手姫伝説」の影響から、「藤沢と言えば小栗判官」と言われていました。浮世絵では定番と言える東海道五十三次物では藤沢宿の象徴として扱われ、小栗判官と照手姫、また愛馬の鬼鹿毛（伝説の荒馬）がたびたび登場しています。最も大胆に描かれているのは歌川国貞（三代豊国）の「東海道五十三次之内 藤沢 小栗判官」（図①）でしょうか。このシリーズ作品は、各宿場にゆかりある歌舞伎の演目に登場する人気役者の姿を大きく描き、上部に宿場の風景が描かれています。こうした趣向は〝見立て〟といい、この作品は、通称「役者見立東海道」と呼ばれます。描かれている小栗判官に扮する役者は坂東竹三郎（のち、五代目坂東彦三郎）で、藤沢宿の風景は歌川広重の名所絵を写しています。

歌川芳員の「東海道五十三次之内」は各地に伝わる説話をユーモアあふれる表現で描いています。「藤沢」（図②）では、若侍と馬が囲碁を打っています。これは、小栗の物語の「鬼鹿毛乗馬の段」（小栗が人食い馬の鬼鹿毛を乗りこなした証拠に、碁盤の上に四つ足立ちで立ってみせる場面）から想起した一種の戯画で、若侍は小栗、馬は鬼鹿毛、横で見ているのは照手姫と受け取れます。鬼鹿毛が轡の柄の着物を着ているのもご愛嬌です。

図② 歌川芳員「東海道五十三次内 藤沢」

図③ 歌川国貞（三代豊国）/歌川広重
「双筆五十三次 藤沢」

江戸時代末を代表する二人の絵師、国貞と広重が描いた「双筆五十三次 藤沢」（図③）には、女性が土車を引いている姿が描かれています。物語では、引かれた車には病に苦しむような小栗が乗っていますが、ここでは描かれていません。これは、歌舞伎や浄瑠璃の「照手車引の段」の場面そのままです。上部の風景（広重画）は当時の藤沢宿の西方にあたる南湖の松原で（現茅ヶ崎市）、松並木の奥行は、まるで熊野までの長い道のりを暗示しているようです。物語では、小栗は熊野（和歌山県）の湯の峰（温泉）に浸かって病が本復します。

図④ 歌川国芳
「東海道五十三対 藤沢」

歌川国芳の「東海道五十三対 藤沢」は、広重、国貞、国芳という人気絵師が各宿場に伝わる伝説等を図像化し、分担して描いたシリーズ作品です。「藤沢」（図④）では、岩を持ち上げているのは病から本復した小栗で、傍らの驚いた様子の女性が照手姫です。小栗の左側には綱の付いた土車、背後には那智の滝が描かれて、ここまで小栗が引かれてきたことを物語っています。題名では、藤沢を描いているはずなのに、場面は那智（和歌山県）なの！？と、驚くような表現です。

江戸の娯楽に広がる　小栗判官物語

図① 歌川国貞（三代豊国）「世界花小栗外伝」

説経節に由来を持つ「小栗判官物語」は、人形浄瑠璃・歌舞伎や草双紙等に採り上げられることで多くの人に知られ、数々の派生作品生んでいます。

図①は歌舞伎「世界花小栗外伝」の舞台を写した浮世絵作品です。

主役の小栗判官と照手姫は登場せず、元は小栗の家臣であった漁師の浪七が、照手姫を守るため奮闘するシーンで、主役以外の多くのキャラクターが登場して、話の筋を広げていきました。

図② 柳亭種彦（文）歌川国貞（画）「伊呂吉由縁藤沢」

図②の草双紙、『伊呂吉由縁藤沢』（文政４年（1821）刊行）は江戸時代の代表的な戯作者の一人である柳亭種彦の作品です。題名は、伊呂（色）の紫と、由縁（ゆかり＝赤紫蘇）の紫を、藤沢の藤色（紫）に掛けたもので、小栗物語を下敷きにした絵入り娯楽小説です。

図③ 小栗判官照手姫くどき

図③は説教節「小栗判官」をもとにした、ヤンレイくどき（流行り唄）の唄本です。全国各地で歌い継がれ、現在でも和歌山県有田川町では盆踊りの「まかせ音頭」として継承されています。

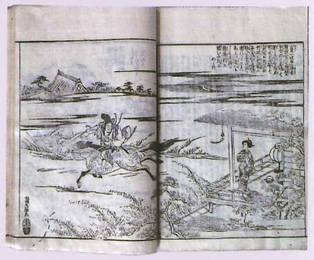
図④の「小栗判官からくり文句」は、子ども向けのいわゆる「おもちゃ絵」として作られたものですが、小栗判官物語が「覗きからくり※」として上演されたことを物語り、かつ、子どもたちにまでそのストーリーが広まっていたことを想像させます。

※「覗きからくり」とは、のぞき穴のある箱の中にストーリー仕立てにした絵（名所の風景や絵）が何枚も仕掛けられていて、口上（説明）する人の話に合わせて、絵が入れ替わって行く見世物です。

図④ 小栗判官からくり文句

小栗判官と遊行寺　今に伝わるその縁

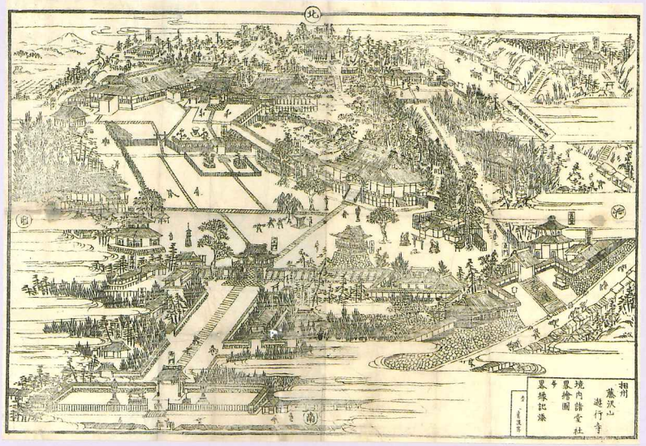
室町時代の軍記『鎌倉大草紙』には、小栗満重の乱にからめて「小栗判官照手姫」の説話が記されています。満重の子小次郎助重が常陸国小栗から忍び出て、相模国の権現堂で危うく強盗に毒殺されるところを照姫に助けられて、藤沢道場へ馳せ入り、藤沢の上人の計らいで時衆とともに三河国に逃れたのち、強盗を討ったという話です。この話は、図①『東海道名所図会』にも紹介されてます。



図①『東海道名所図会』の「小栗伝説」

遊行寺に伝わる話では、相模へ来たのは満重で、横山邸で毒殺されてしまいますが、閻魔大王の慈悲と夢告に導かれた遊行第十四代太空上人によって蘇生し、土車に乗せられて熊野の湯ノ峰温泉へ送られて復活するという話になっています。また照手姫は太空上人に帰依して長生尼となり、長生院に入って満重主従の墓を建立し供養したと伝えられています。図②「小栗判官一代記略図」は小栗判官物語と長生院の建立の縁起を示す摺物です。かつては境内で絵解きも行われていました。

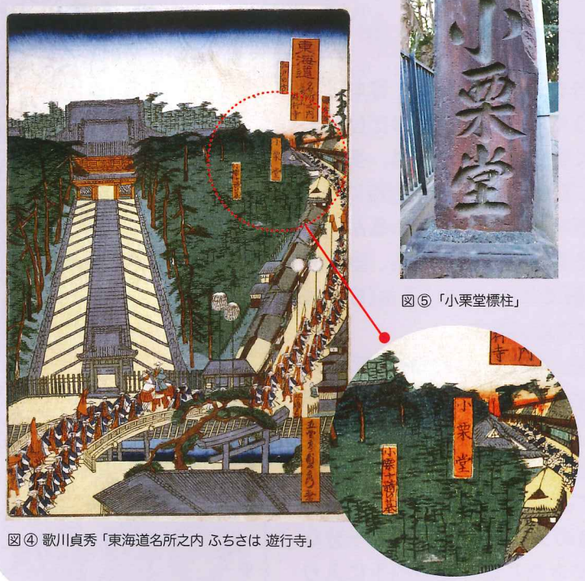
図②「小栗判官一代記略図」



図③「相州遊行寺境内諸堂社略絵図并略縁起」

太空上人は、室町時代の応永23年(1416)に、上杉氏憲(禅秀)が足利持氏に対して反乱を起こした「上杉禅秀の乱」の際に、一山の僧と近在の人々と共に敵味方両軍の傷ついた兵を収容して治療を行うとともに、戦没者を葬り敵味方の区別なく平等に供養し、供養塔（遊行寺境内の国史跡「藤沢敵御方供養塔」）を建立してその霊を弔ったことで知られており、小栗の物語との兼ね合いが見られます。

時宗の総本山である遊行寺（清浄光寺）（図③）は、寺院自体が東海道の名所でありましたが、小栗判官物語が流行し、小栗主従や照手姫・鬼鹿毛の墓などがあったため、立ち寄る人が絶えませんでした。



図④ 歌川貞秀「東海道名所之内 ふちさは 遊行寺」

図⑤「小栗堂標柱」

図④は歌川貞秀の「東海道名所之内 ふちさは 遊行寺」で、現在は箱根駅伝の難所として有名な「遊行寺坂」（東海道）が描かれています。この坂に面して「小栗堂」の表記があり、現在も長生院の通用口付近には「小栗堂」と記された標柱があります(図⑤)。標柱の側面には「享和三年（一八〇三）二月、願主（本願成就のためにこの標石を寄進した人）東都（江戸）神田豊島町の丸屋正蔵」とあって、江戸の商人が立派な石材を寄進している一事からしても、江戸時代の参拝客の賑わいが彷彿とさせられます。

浮世絵こぼれ話 06

近世文学の代表作ともいえる十返舎一九の『東海道中膝栗毛』の登場人物・弥次郎兵衛と喜多八の二人は、藤沢宿を発つ際に駕籠に乗り、駕籠かきとの会話に興じます。その話中には・・・

十辺舎一九作・雷文舎鬼笑 校合・歌川国芳 画「東海道中画本膝栗毛」

弥「コウ貴様たちやァ藤沢か。アノ宿も大分きれいになったの。問屋の太郎左衛門どのは達者かの」

駕「よくだんなはしってござる。随分たっしゃでゐられます」

弥「孫七どのはまだ勤めているのか」

駕「アイサアだんなはなんでもあかるいもんだ」

という場面があります。弥次郎兵衛が藤沢宿の問屋や旅籠の名など、いわゆる「地元ネタ」を話すので駕籠かきは驚きますが、実は弥次郎兵衛は駕籠の中にあった道中記（旅行案内書）を読んでいたというネタばらしがあります。

この会話に出てくる「孫七」とは藤沢宿の旅籠「ひらのや」の主人のことです。孫七こと平野道治は、俳諧をたしなみ「富屋」と号し、狂歌では「本街道駅路鈴成」と名乗る好事家でありました。また、藤沢の郷土誌『我が住む里』(『我棲里』)で知られる『鶏肋温故』でも、かつての藤沢宿の姿を記録しています。さらに、幕末の政治思想家であり日本画家でも著名な渡辺崋山との親交も見られ、崋山が藤沢を訪れた際のスケッチに富屋とされる句が記されています。

藤沢宿の文芸の中心的存在であった「孫七」の名が、江戸の十返舎一九のもとにも届いていたのでしょうか。

ONIKAGE 学芸員のページ

浮世絵を伝えること ⑧

『浮世絵の技②』サクラサク

楊州周延
「雪月花　相模　横山の花　照手姫　小栗判官」

桜の便りが待ち遠しいこの頃。春本番を告げるかのように咲く花の美しさだけでなく、散っていく様の潔さや儚(はかな)さは、多くの先人をも魅了して参りました。浮世絵にとっても、桜は重要な役割を担っているんでございますよ。それと申しますのも、当館の浮世絵は木版画ですが、その「版木(板木)」は桜の木なのでございます。

髪の毛より細い線を彫る浮世絵の版木は、硬くて緻密で粘りのある木質である山桜が使われました。これがもう、素人にはまさに刃が立たないと申しますか、一般人にはエラく彫り難いんでございます。

それから、紙の大きさに見合った十分な大きさを確保できたことや比較的手に入りやすい木材だったことなどが、桜材が使われたゆえんであります。

時代が下り、今では桜材はたいへん高価になり、様々な産地のものが入ってきて、版木に向いた良い桜材が手に入らなくなったと言われております。

ちなみに、硬い桜材を彫るには、地金になる鉄と刃になる鋼(はがね)(鉄と炭素の合金)からできている専門の彫刻刀を使います。主に小刀、透鑿(すきのみ)、相間鑿(そうあいのみ)、と言われる３種類の刃物で彫られます。

いくら硬い桜材でも、たくさん摺れば摩滅します。例えば1000枚の浮世絵を摺るには、200枚摺っては数日版を休ませ、また200枚摺っては休ませ、5 回に分けて摺り上げます。それから、新しい版材はどんなに乾燥させても反りや歪みを生じるので、使用済みの版木を再び削って使うこともありました。天然の桜にはそれぞれのクセがあり、版木や刃物を使いこなすのが彫師の「技」でございました。

ところで、桜は多くの浮世絵に描かれております。東海道五十三次ですと、御殿山の桜、石薬師の桜、京都の桜などの名所であったり、「絶景哉(ぜっけいかな)」と宣(のたま)う大盗賊石川五右衛門を際立たせる演出に使われたりもします。楊州周延(ようしゅうちかのぶ)の「雪月花(せつげつか) 相模(さがみ) 横山(よこやま)の花(はな) 照手姫(てるてひめ) 小栗判官(おぐりはんがん)」では照手姫から小栗への恋文を結び付けた桜が観られ、話に花を添えます。

桜の季節･･･、花見もいいけど浮世絵もね！

編集後記

浮世絵は江戸時代に作られたものですが、とりあげられた題材は、江戸時代の人々の興味ある題材なので、時代が遡ることがあります。今回の小栗判官物語も、江戸時代以前から伝わる遊行寺など鎌倉時代前後の歴史的事物や伝承などが色濃く見えます。江戸時代を透過して伝わる藤沢の歴史文化のひとつとして小栗判官の伝承に興味をもっていただければ幸いです。

編集・発行：藤沢市藤澤浮世絵館
【住所】〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台２丁目２番２号ココテラス湘南７階
【電話】0466-33-0111【FAX】0466-30-1817
【開館時間】10:00 ～ 19:00(入館は 18:30 まで)
【休館日】月曜日 (祝日、振替休日の場合は翌平日)
※その他、展示替えのために休館日がございます
【HP】 藤沢市藤澤浮世絵館 で検索

facebook：藤澤浮世絵館 公式アカウント
⇦このマークが目印です。「いいね！」お願いします。